



議 委 第 76 号
平成24年12月5日

南会津町議会議長 芳賀 昭 順一 様

産業建設委員長 山 内 政



所 管 事 務 調 査 報 告 書

所管事務調査について、調査した結果とその内容を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調 査 日
 - 1) 平成24年11月7日(水)
 - ① 午前10時00分～午前11時45分まで
 - ② 午後1時00分～午後2時50分まで
 - 2) 平成24年11月14日(水)
 - ① 午前10時30分～午後0時15分まで
 - ② 午後1時30分～午後2時まで
2. 目 的
 - 1) ① 福島県建設業協会山口支部との意見交換会
② 伊南地域災害復旧状況の現地確認
 - 2) ① 南会津町建設協議会との意見交換会
② 田島地域羽塩地区の改良要望箇所の現地確認
3. 参 加 者
 - 1) ① 委員長 山内 政、副委員長 阿久津梅夫
委 員 長谷川耕一、室井 嘉吉、湯田 哲、渡部 忠雄
オブザーバー 議長 芳賀昭順一
事務局 鈴木 雄蔵
支部長 酒井 秀明、
会 員 新井 博文、芳賀 博之、五十嵐洋光、馬場 洋平
近藤 利男、近藤 大樹、芳賀 博一
事務局 羽染 和助
② 委員長 山内 政、副委員長 阿久津梅夫
委 員 長谷川耕一、室井 嘉吉、湯田 哲
事務局 鈴木 雄蔵
農林課長 大竹 洋一、係長 室井 利和
建設課長 鈴木 忠男、課長補佐 大橋 三郎
伊南総合支所長 齋藤 友一、振興課長補佐 湯田 信隆

- 2) ① 委員長 山内 政、副委員長 阿久津梅夫
委 員 長谷川耕一、室井 嘉吉、湯田 哲
事務局 鈴木 雄蔵
協議会長 馬場 富男
会 員 鈴木幸ノ助、渡部 雅孝、大橋 祐一
浅井 浩志、穴沢 貞夫
事務局 皆川 洋一
- ② 委員長 山内 政、副委員長 阿久津梅夫
委 員 長谷川耕一、湯田 哲
事務局 鈴木 雄蔵
建設課 主査 河原田庄佐
羽塩区長 渡部 傳吉

4. 説 明 員 1) ②については、農林課、建設課、伊南総合支所、の担当職員に出席を求めて、現地で説明を求めた。
- 2) ②については、建設課の職員に出席を求めて、現地で地元区長と一緒に現地確認を行った。

5. 調査日程及び結果

1) ①福島県建設業協会山口支部との意見交換会

◎ 南郷総合支所 2 階会議室で開会、委員長あいさつする。 10:00

ア、現在の仕事の現況と今後の見通しについて

- ・新潟、福島豪雨災害復旧工事では県及び南会津町、只見町、檜枝岐村から発注をいただき、田島支部の応援も仰ぎ不調をなくすため努力した。
- ・復旧工事の他いわゆる通常の一般工事の発注も重なり、一部不調も出てきた。
- ・これは復旧工事に多くの代理人を取られて、現場管理する人材が不足したために生じた。
- ・会社としては、公共事業が激減する中で経営の省力化を図ってきたため、体力的に大変である。
- ・災害復旧工事では、仕事を下請けに出さざるを得なくて出したが足元を見られた。設計が現地対応なので宿泊費等は設計に入っておらず大変だった。その後要望して宿泊費を認めてもらった。
- ・災害復旧工事終了後が心配である。

イ、建設業従事者の後継者育成について

- ・後継者育成については、各社それぞれ違う。
- ・仕事の予定がつかないと後継者の育成も図れない。
- ・何より魅力ある職場づくりを目指したい、その事により人材も集まる。

ウ、冬期間の除雪体制の維持について

- ・除雪は二人体制をお願いしたい。
- ・田島地区と除雪単価が違う。
- ・二人体制をお願いしても、除雪車が一人乗りであった。後継者育成を兼ねて自社負担で除雪車の後に一人つけて行っている。
- ・除雪を実施した分しかお金が入らない、毎日従業員は待機している。せめて待機補償があれば冬期間限定で雇用ができる。

- ・除雪車のリース化は、図られないか。高額な除雪車を購入するよりいいのではないか。

エ、南会津町議会に対する建設業政策への要望

- ・受注産業である、計画的な工事の発注をお願いしたい。各集落での要望事項を是非進めてもらいたい。
- ・災害関連工事の後仕事が激減する、これの対応を考えてもらいたい。町の工事関係予算の増大をお願いしたい。
- ・震災復興事業の推進で浜通り地方に多くの予算が取られてしまうのではなかろうかと心配している。
- ・公共事業で働く人々が減少している。地元経済を回すためにも仕事を作ってもらい、雇用を確保して行く必要がある。業者も待遇改善を図っていく努力が必要である。若い人が来ないと地域がだめになってしまう。
- ・人口減少が進んでいるので、雇用の確保をお願いしたい。
- ・入札の不調があるのは、設計単価が現況に合わないからではないか。町は地域の実状に合った設計をしてもらいたい。時には、見積もり合わせも必要なのではないか。
- ・災害復旧事業で林道災害の工事を行っているが、手前から順々に施工して行くと奥がどうしても間に合わなくなる。事故繰越の配慮をお願いしたい。
- ・建設業の現実をアピールしていただきたい。仕事を受注すると直ぐに儲かっているといわれるが、現実には利益を出すのに四苦八苦しているのが現状である。
- ・役場に技術者を採用してもらいたい、現場を知らない職員がいる。
- ・町内の業者に仕事を取らせていただきたい。

オ、その他

- ・日当等は各社それぞれ違っている。能力給である。資格の有無でも違う。
- ・当然のことだが社会保険料を支払っている、この社会保障料の負担が大変である。
- ・耐震工事等の入札に際して、もう少し時間的猶予をお願いしたい。工事内容により、他から見積書をとる必要があり、集約に時間がかかる。

◎ 南郷総合支所 2 階会議室で閉会。

11:45

1) ②伊南地域災害復旧状況現地確認

◎ 青柳地区、林道横向線

13:00

- ・通称、縦向方面は林道を直し、沢の倒木等処理しながら進まなければならなくて大変な工事だった。工事箇所は 5 箇所。一番奥の工事を年内に完成させ、横向方面 3 箇所は、事故繰越で対応せざるを得ない状況であった。工事箇所 3 箇所。一番手前の工事箇所は道路の線形さえも不明な状況であった。

◎ 内川地区、林地崩壊・見受山

- ・工事進捗率が低かった。仮設整備の都合で来春施工。事故繰越で対応せざるを得ない。

◎ 内川地区、林道大原線

- ・国道脇に大量にあった災害土砂もきれいに片付けられて林道工事が進められていた。今年中に 580m の内、150m を施工する予定。残りは通常繰り越しで来春施工する。

◎ 小立岩地区、町道、居平・瀬戸山線

- ・仮設道の整備が進み奥まで入れたが、上流の森林管理署発注の砂防ダム工事が終了しないと本格的に工事に入れない。通常繰り越しで来春施工する。

◎ 小立岩地区、普通河川・安越又川

現地で解散 14:50

- ・去年の被害が一番ひどかった箇所だが、国道にかかる橋梁の前後もきれいに整備され護岸も巨石で積み上げられ復旧が進んでいた。

2) ①南会津町建設協議会との意見交換会

◎ 田島建設会館 1 階会議室で開会、委員長あいさつする。

10:30

ア、現在の仕事の現況と今後の見通しについて

- ・西部地区の災害復旧工事で今年度は土木工事でもある程度確保できているが、来年度は、県・町を含めても本年度並みに維持するのは無理と思われる。
- ・西部地区の災害復旧工事では、田島地区の業者にも応援要請があり工事を受注することができた。この体制が今後とも通年を通して続くことを町にも県にもお願いしたい。
- ・西部地区の災害工事の発注は、来年度はないのではないかな。
- ・西部地区の災害工事の入札で今後は田島地区だけの業者での入札も考慮願いたい。

イ、建設業従事者の後継者育成について

- ・予算の継続性が無いために新卒者を入社させて教育、育成する余裕がない。
- ・労務単価が減少して建設業に魅力を感じなくなり、若手の雇用が困難になっている。
- ・現在福島県の労務単価は低い、この単価では後継者の育成は困難である。
- ・御蔵入交流館で開催された就職説明会に参加し、2 名の高校生が説明を聞きに来た。結局、新卒を受け入れた。
- ・高校と意見交換の機会を設け、会社が必要とする専門学校等で教育していただければ、就職率も向上し、お互いにメリットが有ると思う。

ウ、冬期間の除雪体制の維持について

- ・年々高齢化が進んでおり、近年の内にオペレーターの維持が困難になる。
- ・自社の機械の維持管理費が大きくなり厳しくなっているのを、県が行っているように町の機械を貸与してほしい。
- ・冬期間だけでの採用は中々困難である。せめて待機手当があれば雇用継続できる。
- ・自社での維持管理が大変である、公共事業が無くなって重機の維持が本当に大変になってきた。
- ・建築工事は、冬場の仕事がない。その時に除雪の仕事があると従業員をつなぎ止めて置くことができる。できれば2 人体制だともっといい。
- ・除雪にかかる単価が西部とでは違っている。
- ・近年、不安定な降雪状況にあり除雪機械、除雪作業員の維持にも不安がある。体制維持のためのサポートが必要。

エ、南会津町議会に対する建設業政策への要望について

- ・労務単価歩掛等が厳しく利益確保が困難であるため、機会があれば当局に改善を要望していただきたい。
- ・公共事業の継続と確保をお願いしたい。事業が有って成り立つ、仕事を作り続けてほしい。
- ・新規事業の早期実現、高規格道路（縦貫南道路建設の促進）、黒磯・田島線の国道昇格及び早期着工の実現。これらの事業を推進して行く中で、議会と手を結んで進んで行きたいと思ってる。
- ・町の入札制度で、社会貢献（例えば従業員が消防団に加入して活動している）等や福祉ボランティア活動、青少年のスポーツ活動の指導等、を従業員が行っている場合は点数を高くするとか、新しい視点での改革も必要なのではないかな。

オ、その他

- ・建設業協会の東部地区と西部地区の統合の動きあり。西部は財産を持っている。今後統合の方向か。

◎ 田島建設会館 1 階会議室で閉会する。

12:15

2) ②田島地域羽塩地区の改良要望箇所の現地確認

◎ 羽塩地区、国道 121 号消防屯所前

13:30

- ・国道の歩道脇水路に蓋がなく子ども達が危険なので、蓋掛けをお願いしたい。荒海小学校でも危険箇所として、町に改善要望が出されているとのこと。
- ・区長の説明を受けて、委員会で現地を確認した。
- ・早急に結論が出せる状況でない。
- ・建設課職員も区長に説明を行っていた。

◎ 現地で解散する。

14:00

6. 総 括

- ・今回所管事務の中でも大きな予算を執行する、建設業関係者との意見交換会であった。町を代表するほどの方々との意見交換会は緊張感に満ちていた。意見を聞く内に、切実な思いが関係者から伝わって来た。それは、災害があれば常に先頭でスコップを握り重機を操作しなければならないのに、あるいは、極寒の真夜中、町民の足を確保するため懸命に除雪作業に当たらなければならないのに、その後継者育成が非常に困難を極めているという現実であった。公共事業が減り続けてきて、会社の維持が困難で辞めていくのが後をたたないという。そして、後継者育成まで手が回らないという。正直愕然とした。
- ・昨年、新潟・福島豪雨災害を経験した。その復旧の最先端にいたのは建設業関係者であった。国道が土砂で埋まり通行できないとき不眠不休で土砂撤去をしたのは地元の建設業関係者であった。決して忘れてはならないことである。公共事業を取り巻く世論は決して甘くない。しかし、災害に強い町を作るためにも公共事業の役割は大変重要である。
- ・今回意見交換会を打診したところ、驚きが帰って来て、すぐさま歓迎の言葉があった。西部地域の方々も、田島地域の方々も、次回の意見交換会を希望された。町民の多くの雇用を支える建設業関係者、過去にはセフティーネットの役割を果たして来た。次回の意見交換会には要望事項の一つでも前に進んで行くように委員会活動を通じて注視して行きたい。
- ・伊南地域の災害復旧現場は、関係者の努力でかなり復旧していた。冬期間雪の中で作業が進まないことを考えると、事故繰越の処置は安全を最優先にするものであると思われる。担当課の判断を評価したい。